



建築人

2

2014



二〇一三年夏、生誕一〇〇年を迎えた建築家・丹下健三（一九一三〜二〇〇五年）の歩みを振り返る建築展が、彼の代表作として知られる香川県庁舎（一九五八年）のある高松市の香川県立ミュージアムで開催された。その関連行事として催された記念シンポジウムで、彼の教え子の一人である横文彦氏が国立屋内総合競技場の世界遺産化を目指そうと発言し、会場は賛同の拍手に沸いた。印象的な光景だった。横氏は、吊屋根構造による内外の空間が一体となったその造形が、すでに世界遺産となっているシドニーのオペラハウス（ヨーン・ウツソン、一九七三年）を凌ぐ世界的な傑作であることを強調した。そこで、ここでは、竣工から五〇年を迎え、すでに歴史的存在とも言えるこの建物の誕生までの経緯と建築的な意味について振り返ってみたい。

丹下がオリンピックと関わり始めたのは、一九三七年、学生だった日中戦争下が始まる。おりしも、一九四〇年のオリンピック大会の開催都市に東京が決まり、彼の恩師である東京帝国大学教授・岸田日出夫が独立直後の前川國男に各種競技場の検討図の作成を依頼した。丹下は前川事務所へ通い、その手伝いをしていたのである。おそらく、この作業を通じて、岸田は若き丹下の才能を見抜いたのだろう。卒業後、前川事務所所属となった丹下を指名し、戦争によって幻に終わったオリンピックの唯一の形見として建設された岸記念体育会館（一九四二年）を担当させてデビューさせる。それから戦争を挟んで時を経た一九五九年、再び東京オリンピック招致が決定し、競技場建設の責任者に返り咲いた岸田は、迷うことなく、東京大学助教授となった丹下を設計者に指名する。そして、戦時下に

主競技場の敷地として強く望んだものの、陸軍の強い反対にあって撤回を余儀なくされた代々木練兵場の跡地に、この競技場の建設を実現させたのである。つまり、この瞬間に、戦争を乗り越えて戦後復興を果たし、国際社会への復帰と平和を希求した人びとの思いと岸田と丹下の建築家としての使命感とが一つに実を結んだことになる。それでは、競技場はどのように設計されていったのだろうか。興味深いことに、丹下の下で設計チームを務めた神谷宏治の証

のほは構造的な解決方法だけではなかった。続く文章の中で、丹下は、吊構造を選択した根拠について、次のように記している。「しかし私自身、決定的にこれにふみきつたのは、この構造が『開かれた空間』を可能にするという見通しをえたからであった。私たちは、構造形式とは独立に、初期のころから、こうした大勢の人びとを迎え、あるいは送り出すといったことを必要とする空間は、その流体力学的な面ばかり

記憶の建築 松隈 洋

国立屋内総合競技場 1964年
戦後復興と平和を象徴する空間



第1体育館外観



内部アリーナ全景

言によれば、大きく両側に口を開けた大屋根の組合せからなるユニークな造形は、大勢の観客をスムーズに内部へと誘導し、安全に避難させるにはどうしたら良いのか、というテーマから導き出されたのだという。竣工直後、丹下自身も、設計プロセスを振り返った文章の中で、「主体育館の巨大な空間を支える構造」をどうするのか、が最大の課題であったと記し、「いろいろな可能性のなかから『吊構造』がえらばれた」と述べている。けれども、意図された

でなく、心理的な意味においても、なにか開口部が必要であると感じていた。逆にいえば、閉ざされたスタンドがさらに屋根によって覆われるときにおこる閉塞感を排除したいと考えていた。それに加えて、主体育館と付属体育館―あるいは将来さらに他のものが加わる場合に―それら相互の関係づけにとつて、開いた形が必要であるという点を考慮していた。（丹下健三「国立屋内総合競技場の設計をかえりみて」『新建築』一九六四年十月号）

ここに読み取れるのは、大屋根に覆われた空間が内部に閉じることなく、しかも、対となる付属体育館だけにとどまらず、将来周囲に加わるであろう諸施設も含めて、外部へと手を差し伸べるような「開いた形」を求めようとする設計意図である。丹下は、戦後復興と平和の象徴として開催されたオリンピック施設が将来にわたって都市公園の要となることまでも見据えていたに違いない。だからこそ、オリンピック終了直後に記した文章の中に、次のような言葉を書き加えることを忘れなかったのだ。

「しかし、問題は今後にあるように思われる。オリンピックという典型的な状況を念頭において設計されたこの建物が、どう使われるかということである。（中略）私が一番希望したことは、（中略）冬季も水泳場として一般に開放し、あるいは、選手たちの練習の用に供して、水泳の技術を練磨してほしいということである。そのためには、この体育館が、もうけ仕事などは考えないでも、すべて国費で維持される、というふうでありたいものである。」（丹下健三「国立屋内総合競技場の経緯」『建築文化』一九六五年一月号）

丹下は、この競技場が記念碑で終わることなく、市民から選手まで幅広く日常的に使われる、より開かれた公共空間として生き続けることを願ったのだと思う。その思いは受け継がれたのだろうか。今や各種イベントのメッカとなり、市民利用がでび々となったその姿は、どこか孤高にも見える。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

先月号に引き続き、本号もNEXT21を取り上げます。サステナビリティの実現にはスケルトン・インフィルのシステムとエネルギーのシステムはいわば車の両輪です。今回は、そのエネルギーシステムについて大阪ガスの田中敏英さんにご紹介いただきます。先月号を未読の方は合わせてご覧いただければ幸いです。

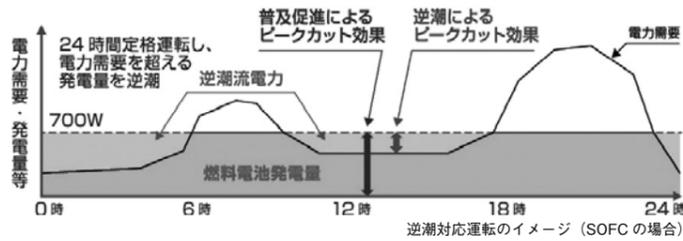
NEXT21 フェーズⅣにおけるエネルギーシステム

田中 敏英

大阪ガス株式会社 リビング開発部 技術企画チーム マネジャー
1966年生まれ。1989年大阪大学工学部環境工学科卒業、1991年同大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。1991年大阪ガス株式会社入社。NEXT21 第4フェーズ検討委員会主査。



NEXT21 外観



逆潮対応運転のイメージ (SOFCの場合)

はじめに

NEXT21は、近未来の都市型住宅のあり方を提案することを目的として、大阪ガス株式会社が一九九三年十月に建設した実験集合住宅である。これまでもその時代の時代を反映したテーマと実験課題を設定し、建築(住まい・住まい方)や設備(エネルギーシステム)に関する開発技術や提案を広く公開するとともに、新たな居住空間に大阪ガスの社員とその家族が入居し、一五年間(三フェーズ)の実証実験を実施してきた。

昨年六月より、第四フェーズ居住実験を後述のコンセプトで新たに開始している。ここでは、実験課題として導入したエネルギーシステムを中心に紹介する。

第四フェーズ居住実験のコンセプト

少子高齢化の進行や深刻化する環境問題、東日本大震災を経て、人・自然・エネルギー、そして住まいの関係性を改めて見つめ直すことが重要と考え、第四フェーズ居住実験では、二〇二〇年頃までの都市型集合住宅を前提として、「環境にやさしい心豊かな暮らし」を追求する。そのために「人と自然の関係性の再構築」、「人と人のつながりの創出」、「省エネ・スマートな暮らしの実現」を具現化する「住まい・住まい方」、「エネルギーシステム」の居住実験に取り組み。

住まい・住まい方の居住実験

地上から屋上まで積み重ねられた植栽とそれによって構成される緑の回廊を再整備し、豊かな環境の享受や管理を通じて居住者と緑地との心地よい距離感や、野鳥の飛来や植物の自生等による都市内における緑地の役割・つながりを改めて

・太陽熱と組み合わせた熱の有効利用実験

SOFCは発電効率の高い分、排熱回収率が比較的小さく、冬季に熱不足の可能性があり五階住戸のSOFCでは、屋上に設置した太陽熱パネルからの熱を利用し給湯の省エネ化を図る。なお、排熱が余る場合には住戸間で融通もできる。

・次世代型SOFCプロトタイプ機の運転試験
発電効率を従来の四六、五%から五五%に向上させ、貯湯タンクを小容量にして発電ユニットに内蔵させた次世代のコンパクト型SOFCコージェネレーション試作機を試験運転する。発電効率や排熱回収効率、性能安定性などの基礎データを収集するとともに、施工性・メンテナンスなどを含めた次の試作機設計につながる課題を抽出する。

B デマンドレスポンス対応と逆潮流運転

六階住戸では、購入電力の削減のために電力消費パターンを変化させるデマンドレスポンスの実験を行う。その際、居住者へHEMSを通じて節電を促すだけでなく、家庭用コージェネレーションの発電量を自動的に定格出力まで向上させ、購入電力を削減する。また、逆潮流(分散型電源の発電電力が商用電力系統に流れる)が可能な場合には、商用電力系統の負荷低減に貢献できる。

また、六階住戸の家庭用コージェネレーションシステムを逆潮流可能な条件で運転制御し、省エネポテンシャルを最大化する実験を展開する。逆潮流が可能となれば、家庭用コージェネレーションをフルに活用することができ、ピークカットや電源の分散化によるリスク低減など家庭内だ

確認する。

また、住戸と共用部、住棟と地域の間、中間的な領域を設け、住戸(私)を共用部(共)に、住棟(共)を地域(公)に開くことで居住者同士、居住者と周辺住民との関係性の創出を目指す。具体的には、住戸の一部を子供たちに開放できる住戸、料理教室で人が交流する住戸、居住者同士や居住者と地域住民が交流できる共用スペースを設け、そこのライフスタイルや建築上・使用上の課題を検証する。

エネルギーシステムの居住実験

第四フェーズのエネルギーシステムは、省エネ・省CO2の更なる追求は言うまでもなく、加えて、震災後に顕在化したエネルギー供給の課題(節電、ピークカット、自立)に対しても合理的に解決を導けるものを目指した。

一方、都市居住において環境にやさしい心豊かな暮らしを実現するには、一義的な合理性のみを追求するのではなく、エネルギーと人・自然・住まい・都市の関係性を改めて見つめ直し、柔軟性の高いしなやかなエネルギーシステムであるべきと考えた。それは、

エネルギーの共同利用や融通するスタイルを導入すること、居住者がエネルギーを意識するとともにエネルギー利用に楽しさや安心を感じられること、自然のエネルギーを上手く取り入れること、そして、ビルトインされる住戸や住棟のシステムが都市のエネルギーシステムの階層構造として構成要素化していること

だけでなく社会への貢献も期待できる。

なお、今回の実験は逆潮流を想定したもので、発電電力を商用電力系統に流すのではなく、六階住戸以外の住棟内で利用している。

C 停電時自立システムの構築

ガスコージェネレーションシステムを活用し、停電時にガス供給があれば、自立発電できるシステムを構築した。停電時に常時共用設備で利用している停電対応ガスエンジンコージェネレーション(ジェネライト三一kW)が自立運転し、各住戸へも電力供給することで、三階から五階のSOFCは自立運転機能に頼らずとも継続運転が可能になる。

また、六階の各家庭用コージェネレーションは停電時自立運転機能付きのタイプとしている。

D HEMSの導入

居住者の省エネ意識を高めるために全住戸にタブレット端末のHEMSを導入し、電気、ガス、水道を見える化し、エネルギー融通やデマンドレスポンスなどの情報も提供する。また、端末を見る機会の増加や居住者間の情報交換、交流にも役立つようコミュニケーションのメニューも搭載している。

特に六〇一住戸では、家電機器やガス機器の操作機能、エネルギー別・部屋別・用途別の計測機能、テーブルディスプレイや壁掛けディスプレイを活用した新しいエネルギーの見える化アプリケーションを組み込んだ次世代型HEMSを設置し、本当に魅力的な商用化につながる機能は何かを検証する。

と捉えた。

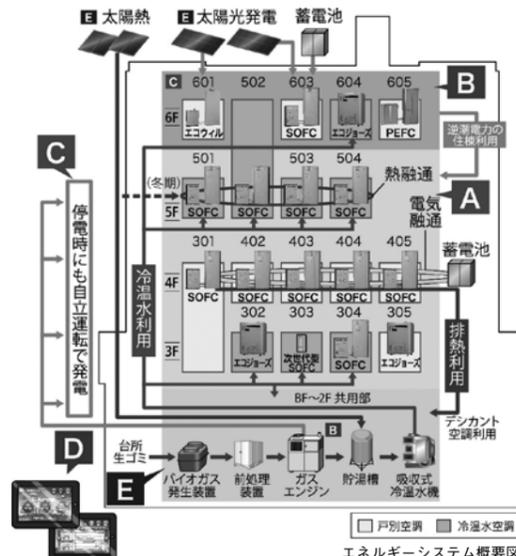
こうしたシステムを実現するために、高効率な燃料電池やガスエンジンタイプのガスコージェネレーションシステムを集合住宅の特性に合わせて効果的に活用し、以下のA/Eのテーマを設定した。

A SOFC住戸分散設置とエネルギー融通

家庭用固体酸化燃料電池(SOFC)コージェネレーションシステムを各住戸に分散設置し、電気融通と熱融通の実験を展開する。また、次世代型SOFCプロトタイプ機の運転試験も実施する。

・発電電力の住戸間融通実験

四階各住戸のSOFCを可能な限りエネルギー効率の高い定格出力で運転し、発電余剰電力を融通もしくは蓄電池に充電し利用する。また、余剰排熱は共用部のデシカント空調(除湿・加湿・冷房が可能な試作機)に利用し、住棟内空調の省エネに寄与する。



エネルギーシステム概要図

E 再生可能エネルギーとの組み合わせ

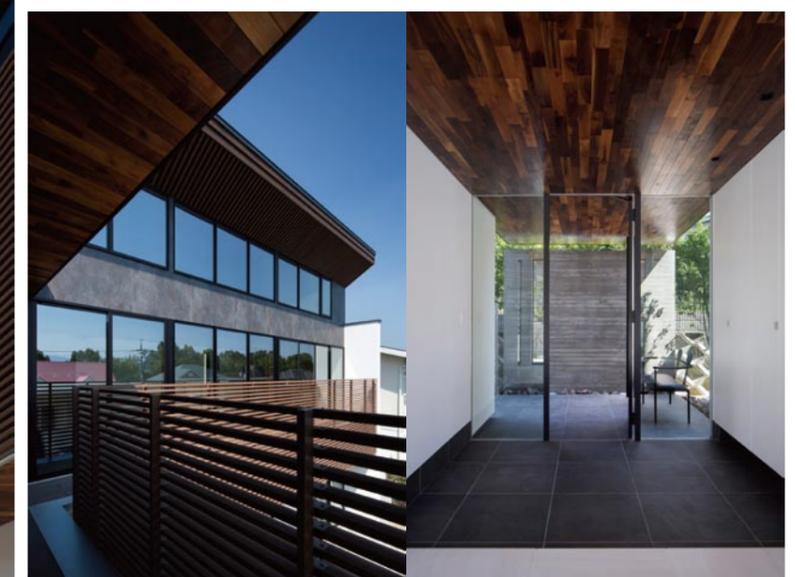
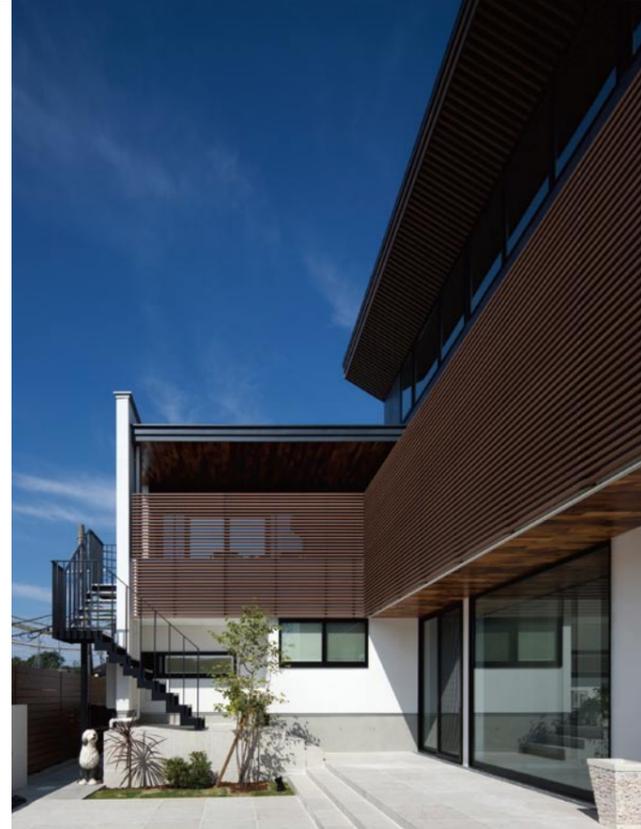
集合住宅のガスシステムと効果的に組み合わせる再生可能エネルギーとして、太陽光、太陽熱、バイオガスの設備を導入した。

太陽光発電は六階の二住戸に設置し、当該住戸の家庭用コージェネレーションとともに自家消費電力を賄い、余剰電力は住棟内で利用する。太陽熱は屋上に設置した真空管式集熱パネルと前述した五階のSOFCと組み合わせる他、共用部のガスエンジンコージェネレーションの排熱と一緒に吸収式冷温水機の熱源として利用し、住棟セントラル空調の省エネ化を図る。バイオガスは各住戸の台所生ごみを集約し、メタンを主成分とするバイオガスを発生させ、都市ガスと混合してガスエンジンコージェネレーションの燃料として有効活用する。

最後に

今回紹介したNEXT21に導入したエネルギーシステムは、集合住宅だけでなく、戸建住戸での適用や都市のエネルギーシステムへの展開の可能性のある有意義な居住実験と考えている。また、大規模な緑化や自然空間とのつながりを活かした住まい方も少ないエネルギー消費で快適な住環境を提供する重要な要素である。

NEXT21第四フェーズでは、単なるエネルギーシステムの実験に留まらず、これからの住宅・エネルギーのあるべき姿はどのようなものか考え、二〇二〇年頃までの都市型集合住宅を前提とした「環境にやさしい心豊かな暮らし」を追求していく。



阪堺線が走る道路に面したこの建物は、造園業を営む夫婦のための住まいです。建物の外観は片流れの一枚の大屋根と、低く抑えた玄関庇により落ち着いた佇まいとしています。壁と屋根は共に黒の金属板でシンプルな仕上げとし、玄関周りは柱や板貼りの軒裏により木造建築の柔らかさを残しました。内部は朝日が差し込む東側の庭と午後光を採り込む西側の中庭のある居間を中心に、南側の主庭に面した日本間やプライベートな部屋を配置しています。施主により作庭された屋外空間と室内が一体となり、光と風を心地よく感じる住まいとなっています。

所在地：大阪市住吉区
用途：専用住宅
竣工：2013.4
構造規模：木造平屋建
敷地面積：368.48㎡
建築面積：137.31㎡
延床面積：123.07㎡
写真：松村芳治

敷地は堺市南区の小高い斜面地にあり、ゆったりと住宅が建ち並ぶ住宅地です。南東に視線が抜ける絶好の景色を利用して、南東側をテラスにしたL型の平面形状としました。厳しい北側斜線をかわしながら建物ボリュームを確保しつつ、道路から1.5m上がった敷地の条件から、L型の内部は大きな勾配屋根をもつ黒色の北側の箱と白い壁の西側の箱に分け、その二つをレベル差で繋ぎ、全体をスキップフロアの構成としました。段差を活かし、半埋め込みの音楽室や道路とプロの駐車場、半階上がったところにプライベートゾーンを集約し積み上げ、最上部に眺めの良いリビングと小上がりの和室空間が一体となった大空間を配しました。

所在地：堺市南区
用途：専用住宅
竣工：2013.8
構造規模：木造一部RC造
敷地面積：253.10㎡
建築面積：100.42㎡
延床面積：234.76㎡
写真：富田英次

INFORMATION

Sponsorship

| |
|--------------------|
| 建築士会からのお知らせ |
|--------------------|

会員の皆様へ
「応急危険度判定士」資格取得のお願い

◆◆◆

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。この機会に判定士養成講習会を受講され、本会判定士ネットワークへの登録をお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会

2/19 CPD4 単位

日程 2月19日(水)
時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(申込先着順)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料 無料 テキスト代 1,500円(税込み)
申込先・問合せ 一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

本会における既存建築物耐震診断等評価業務のご案内

～平成26年1月より耐震評価業務を開始～

「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正による、広域緊急交通路の沿道建築物や不特定多数が使用する5,000㎡以上の大規模建築物などの耐震診断等の義務化等に伴い、本会は大阪府から耐震評価機関の指定を受け、有識者や実務者の委員で構成される「建築物耐震評価委員会」を設置しました。平成26年1月より耐震評価業務を開始しましたので、ご活用していただきますようご案内します。

（業務内容）
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画案の審査、評価
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象しております。
(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の割引があります。
詳細につきましては本会ホームページをご覧ください。

平成25年度 建築士定期講習

3/26 CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講

された方が対象です。なお、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場
3/26(水) 9:30～17:30
大阪国際会議場、定員300名
会場コード5C-54
■申込締切日
2/28(金) 申込書必着
※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,900円(消費税含)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

◆◆◆

実践建築スクール(大阪府知事指定講習)木造住宅設計・監理コース

2/7～2/21 CPD18単位

◎本講習会は申込者が定員に達しましたので受付を締切しました。
日時 2014年2月7日、14日、21日の3日間
全日程とも(金) 9:30～16:50
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 木造の基礎知識、基本設計、実施設計、地盤・基礎設計、軸組設計、耐風・耐震設計、確認申請、工事監理
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員15,000円、一般19,000円

テキスト代 3,000円(ひとりで学べる木造の壁量設計演習帳)

第21回地域実践活動発表会 近畿あきてくと2014

エネルギー～今だからこそ考える～

2/8 CPD4単位

近畿各地の様々な地域実践活動の発表会を本年度も開催。発表会後には発表者の方々との交流パーティーも開催します。

発表者とテーマ
1 和歌山県 「和歌山県庁本館」出版事業 高垣晴夫
2 兵庫県 「たじまde ナイト」 西脇聖嗣
3 学生 木造耐力壁ジャパン カップへの挑戦 滋賀職業能力開発短期大学校 福井佑真・前村晋吾・山本将平
4 滋賀県 ガソリンスタンドはまちのエコロジーステーション 青山裕史
5 大阪府 親と子の都市と建築教室「まちをつくらう2013「エネルギーのまちをつくらう」」 室木 裕
6 京都府 地球主義な暮らし方セミナー 大村利和
7 奈良県 社会福祉法人慈光園地中熱利用空調システム導入推進事業 中原一晃
日時 2月8日(土) 13:00～17:30(開場12:30)
□協賛展示・会場入替 17:30～18:30
□交流パーティー 18:30～20:30
会場 たかつガーデン8F
大阪市天王寺区東高津町7-11

参加費 500円(資料代・学生は無料)
定員 200名(申込先着順)
交流パーティー参加費 一般5,000円・学生3,000円
定員 100名
会場 たかつガーデン
申込・問合せ 近畿建築士会協議会青年部会事務局 Tel.075-211-2857
詳細は近建青HPをご覧ください。
http://www.kinkensei.com

第59回大阪建築コンクール(隔年開催)募集案内

本コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰するものです。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者を表彰します。
応募資格
大阪府知事賞部門
大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者
渡辺節賞部門
大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者で完了検査済証発行日現在39歳以下である者
対象建築物 建物の種類・規模は問わない

2009年1月1日から2013年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物で建築位置が近畿二府四県であること
審査委員
委員長 本多友常(摂南大学教授)
委員(※50音順)
長坂 大(京都工芸繊維大学教授)
濱田 徹(鹿島建設㈱関西支店専任役)
平田 真(大阪府住宅まちづくり部 公共建築室室長)

松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)
萬田 隆(tmsd萬田隆構造設計事務所、大阪産業大学)
応募期間 2月17日(月)～2月28日(金)(2月28日消印有効)
応募料 本会正会員 1作品につき10,000円
会員外 1作品につき30,000円
※ただし、応募時に大阪府建築士会に入会申込及び会費入金をした場合は本会会員金額とします。
※詳細は、本会ホームページをご覧ください。
問合せ・提出先 本会大阪建築コンクール事務局

※参加証は実施1週間前に出状予定です。

第42回会員作品展 募集のご案内

主催：(公社)日本建築士会連合会
全国の建築士会会員の創意と努力に満ちた建築作品を募集、連合会HPに掲載し、会員相互の技術を高めることを目的とします。その中から特に秀でた建築作品を「平成26年日本建築士会連合会賞」として、その作品の設計者である建築士会会員を表彰します。
■応募要項(抜粋)
1. 応募対象
平成23年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その種類、規模等は問わない。

応募時に建築士会の正会員である者に限る。
2. 応募締切 2月21日(金)[当日消印有効]
3. 提出先 日本建築士会連合会
4. 作品審査委員会
委員長 村松映一(㈱村松映一建築計画室主宰)

委員(50音順)
石山修武(早稲田大学教授)
岸 和郎(京都大学教授)
櫻井 潔(㈱櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS代表)
鈴木博之(青山学院大学教授)
竹原義二(無有建築工房代表)
難波和彦(㈱難波和彦・堺工作舎代表)
松川淳子(㈱生活構造研究所取締役特別顧問)
※応募の詳細については、連合会HPをご覧ください。

問合せ (公社)日本建築士会連合会
Tel.03-3456-2061 Fax.03-3456-2067
http://www.kenchikushikai.or.jp/

建築士の会 「南河内」東高野街道歴史散策 IN 安堂

～柏原市安堂から羽曳野市古市間の歴史街道を散策しましょう～
3/1 CPD2単位(予定)

東高野街道は、京から高野山への参詣路として、河内国を南北（八幡、枚方、交野、四條畷、東大阪、八尾、柏原、藤井寺、羽曳野、富田林、河内長野）に貫く、数少ない歴史街道です。今回は、そのうち近鉄安堂駅付近から羽曳野市古市駅までを市歴史ボランティアの3方の案内のもと、散策します。
日時 3月1日(土) 12:30～受付 13:00出発～16:30解散予定
集合場所 リビエールホール市民文化会館1階ホール(近鉄大飯線安堂駅下車すぐ)
参加費 1,000円(資料代、保険代、梅園入場料含む。)
※懇親会参加費 別途3,500円程度必要
定員 30名(申込先着順)
行程 13:00文化会館出発⇒大和川付替記念碑⇒松永白州記念館⇒国府遺跡⇒志貴縣主神社⇒道明寺⇒土師神社⇒道明寺天満宮⇒梅園⇒鶯田八幡宮⇒16:30古市駅前までの約3.5時間程度の歴史散策ウォーキングです。
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

一般府民を対象とした建築相談のおしらせ

一般府民を対象とした建築相談では4月よりこれまで月・水・金の週3回実施してきました電話による建築相談を下記のとおり毎日実施します。
月～金の毎日13：00～16：00
電話相談料 無料
また建築相談に協力いただける会員を募集しています。詳細は事務局までお問い合わせください。

〔本会催しの詳細及び参加申込方法〕
この INFORMATION ページの詳細は本会ホームページにも同時掲載しており、ホームページから直接お申し込みすることができます。
下記の本会ホームページへアクセスしてください。
なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。

【大阪府建築士会ホームページ】
http://www.aba-osakafu.or.jp/

優秀卒業生表彰制度新設のご案内

建築業界の将来を担う優秀な学生を表彰し、より一層の精進に期待することを目的として、「優秀卒業生表彰制度」を新設しました。
申込締切 式典等の1ヶ月前
詳細につきましては、本会HPをご覧ください。

◆◆◆

本会の催し参加問合せ・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

「設計者向け初開催」平成25年度大阪府住宅省エネルギー設計技術講習会開催

木造戸建住宅を対象に、省エネルギー住宅の設計計画及び設計性能を実現するための施工技術の重要性について解説を行うとともに、省エネ性能の評価方法として改正省エネ基準に基づく省エネ計算方法の解説と演習を行います。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
2/6(木)、2/9(日)、2/12(水)、2/19(水)
講習時間 10:00～17:00
会場 大阪木材会館 6階
大阪市西区新町3-6-9

※地下鉄西長堀駅より徒歩2分【専用駐車場はありません。周辺の有料駐車場をご利用ください】
費用 1,000円(受講料)+別途修了証発行手数料

主催・問合せ 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾

※詳細はHP(http://www.shoene.org/)もしくは上記問合せ先へお問合せください。

コンピューター上に3次元の建物情報モデ

泉北ニュータウン戸建て住宅活用シンポジウム－子育て世帯も安心のシェアハウス・こだわりを実現する家－

泉北ニュータウンの戸建て住宅において、新しく誕生したシェアハウスの紹介をすとともに、泉北ニュータウンならではの豊かな暮らし方、こだわりの実践方法をお伝えします。
内容

第1部 プロジェクト紹介
「多世代型シェアハウス誕生－戸建て空き家改修プロジェクト「緑道下の家」－」
第2部 パネルディスカッション
「泉北ニュータウンの戸建て住宅に住む－こだわりを実現する家－」
コーディネーター 白須寛規(designSU代表)
パネリスト 西上孔雄(NPO法人すまいるセンター代表)
松本尚子(木村松本建築設計事務所)
アサダワタル(事編kotoami代表)
泉北ニュータウン在住・実践者(以下2名)
宮前茂子(うつわと暮らしの道具sizuku店主)
利安和子(グループスコレ代表)

日時 3月1日(土) 14:00～16:30
会場 バンジョーホール
泉北高速鉄道「泉ヶ丘駅」徒歩3分
南区茶山台1丁3-1バンジョー5階

参加費 無料 定員 150名
申込方法
住所・氏名・連絡先を電話またはメール、FAX、はがきにて2月27日までに申込先へ主催・申込・問合せ
堺市建築都市局ニュータウン地域再生室
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号
Tel.072-228-7530 Fax.072-228-8468
Mail:nisai@city.sakai.lg.jp
詳細はHPをご覧ください。
http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/senbokusaisei/kodatesymposium140301.html

Others

その他のお知らせ

BIM Seminar OSAKA 2014

コンピューター上に3次元の建物情報モデ

ルを構築する「BIM(Building Information Modeling)」と呼ばれる新たな手法が、建築業界で注目を集めています。BIMは、設計者や施工者だけでなく、建物にかかわるすべてのステークホルダーがメリットを享受できる手法であるべきです。発注者や建物の利用者に対して、BIMを活用することでどのようなことが提案できるのかをテーマとし、発注者、設計者、施工者のそれぞれの立場から、意見を交換できる場としてのセミナーです。
日時 2月7日(金)
開場13:30 開演14:00
参加費 無料 定員 250名(事前登録制)
会場 建設交流館 グリーンホール
問合せ BIMセミナーOSAKA2014実行委員会(日刊建設通信新聞社内)
bimosaka@kensetsunews.com
Fax.06-6944-9197
http://www.kensetsunews.com/

◆◆◆

平成26年 鉄筋コンクリート系マンション健康診断技術者講習会(大阪会場)

建築基準法第12条第1項に基づき定期調査を行う特殊建築物等調査資格者、一級建築士、二級建築士を対象に、特に鉄筋コンクリート系マンションの定期調査に秀でた定期調査専門技術者を養成し、マンション管理組合の維持管理をサポートするため、講習会を開催します。

主催 (一財)日本建築防災協会
日時 3月25日(火) 9:50～17:00
会場 大阪YMCA会館2階ホール
大阪市西区土佐堀1-5-6
定員 140名
受講料 18,000円(テキスト・技術者証代・消費税含)
テキスト 鉄筋コンクリート系マンション健康診断技術者講習テキスト(平成26年版)
申込締切 3月7日(金)
但し、定員になり次第締切
申込 (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6453

大阪市立東洋陶磁美術館 国際交流企画展「定窯・優雅なる白の世界－竈址発掘成果展」

定窯窯址の出土品66点を日本で初めて紹介します。

会期 開催中～3月23日(日)
時間 9:30～17:00(入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日
観覧料 800円
問合せ・会場 大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市北区中之島1-1-26
Tel.06-6223-0055

http://www.moco.or.jp

大阪市立美術館 特別展「第45回 日展」

今回の応募作品総数は13,919点で、入選点数2,358点となり、大阪展では全国を巡回する日展の大家作家による作品と、入賞者の作品からなる基本作品273点に加えて、大阪・奈良・和歌山・兵庫の地元作家による入選作品等349点の、合わせて622点を陳列。現代日本美術界を代表する巨匠から、第一線で意欲的に活躍している中堅、新人の作品が一堂に展覧されます。
主催 大阪市立美術館、読売新聞大阪本社
会期 2月22日(土)～3月23日(日)
休館日 月曜日
時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
会場 大阪市立美術館(天王寺公園内)
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
観覧料 一般1,000円(前売800円)
問合せ 大阪市総合コールセンター
Tel.06-4301-7285



大阪市立美術館特別展「第45回日展」洋画「五穀を生み出す大気津比賣神(古事記)」小瀧一紀(評議員)

会員各位

公益社団法人大阪府建築士会
平成25年12月度理事会承認

理事及び監事の総会選任手続について
理事 監事候補者選考委員会の新設
本会の現状は、数年来の会員減少や諸活動の低迷等により財政直しが急迫している中で、事業では耐震関連等の活動強化、また事務局縮小による大幅支出削減等を実施して乗り切ろうとしている渦中です。
団体の基盤となる会員増強は水劫的な目標であり、増員努力を怠るものではありません。公が即時行うものでもありません。反面、公益目的事業の活性化は短期的に可能な事業です。
事業の活性化のためには、公益社団法人の冠を活かした活動が最も現実的で有効な手段であり、常設委員会の企画力が必要とされる時期でもあります。そのための主軸となるのが役員構成です。
平成24年10月17日の理事会において、組織のスリム化のもと、理事数を26年度までに38名程度とすることが承認されております。減員により会長方針を理事に伝承しやすくし、会長・理事間の齟齬をなくし、また理事の職責を明確にして多人数による責任の希薄化を避ける方針です。
理事減員を決定するとともに、役員候補者の選定方法についても検討を重ねてまいりました。
このたび新設いたしました理事・監事候補者選考委員会は、本会役員との役割と人物評価を明確にしたうえで、多岐に亘る建築分野から幅広く人材を発掘できる場であり、役員構成のバランスを図るために女性や若年層を登用する機会にも配慮でき、本会の時事に対応した新しい意見や考え方を取り入れやすくするために設置されたものです。
これにより、当該選考委員会において役員候補者を協議し、その結果、理事会承認を経て推薦された役員候補者を定款に則り定時総会の決議をもって選任いたします。
なお、理事会における当該選考委員会の設置承認に際しましては、設置3年を目処に成果を精査し、不具合なところは改善することとしています。

会員各位におかれましては、本会運営に関して、ご理解とご協力をお願い申し上げます。
以上

理事会報告

文責 本会事務局

日時 一月二十二日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室
出席 理事三五名、監事二名

(1) 会計報告の承認

十二月末日の当期経常増減額は、収益二六、八〇二、四八円、費用二二、四〇一、〇七八円、増減四、四〇一、一七〇円を報告して承認された。

(2) 収支報告(決算見込み)

現時点での決算見込みは収支差引約六〇万円の前予測となることを報告した。

(3) 次期役員候補者の承認について

前回理事会で承認された各推薦対象者に内諾を得たことを報告し、これに伴い理事推薦者一六名、監事推薦者一名を定時総会に諮ることを承認した。

(4) 優秀卒業生表彰制度について

建築界の将来を担う優秀な学生を表彰し、卒業後の活躍に期待を寄せることを目的として新設を承認した。

(5) 一級設計製図通信講座について

講習会形式に参加できない方、また遠方の方などを対象にして参加機会を拡大する趣旨で新設することを承認した。

(6) 耐震評価機関利用PR活動について
本月より開始した標記機関を役員・委員が率先して広報に携わっていただくべく協力依頼をした。

(7) 地域サークル活動の強化策について
地域活動の活性化のために、特に地元行政庁と連携することが重要であり、応急危険度、耐震診断、耐震評価業務、建築相談、景観整備等々の諸施策に関連して本会の方針に理解を深めていただくために、行政庁訪問を充実させる。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(十八)

発注者とのコミュニケーション

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の阿部芳明様に原稿をいただきました。建築に限らず、専門にしている人とそうでない人のやりとりは、なるべく専門用語を使わないように心がけていても、ついつい無意識に使ってしまったり、専門用語のつもりでなく使ったりしているものです。丁寧すぎるぐらい十分に説明し、相手の思いや考えを確認する事も設計者にとって大切な作業に思います。そんなお話しを頂きました。

電話による建築相談を受けていると、一番多いのは設計者・施工者と発注者のイメージと出来上がった建物設備の仕上がりや、使われている材料のテクスチャアカラー等などの認識の違いによるトラブルの相談です。設計者・施工者と発注者では知識レベルが当然違いますので、設計者・施工者は発注者が当然わかっているだろうと思ってしまうのを割愛したことが、発注者には理解されていなかったり、了承された事柄が解釈の違いで、完成後思っていた仕上がりとは違っているなどのクレームからトラブルになるケースです。

私も流通業のサラリーマン時代、ショッピングセンターのプレゼンを経営者や商品部の方々にした時、商品部の担当者から建築の言葉は、英語を聞くより難解で理解出来ない。例えば「大走り、ハト小屋、キャットウォークとは、一体、なんのことですか?」などと質問があり、プレゼンボードでその場所を指しながら説明しました。当時の経営者や商品部の担当者は建物

の形状や設備にはあまり関心がなく、最大の関心ごとには「この建物や売場で売上高や利益がどのくらい稼げるのか?」と言う事でした。

そこで、プレゼンテーションの時に「中華料理店のフアサードに使用している赤色は、食欲をそとる色と、一般的にインテリア業界では言われています。」とか、「スーパーマーケットのゾーニングで、お客様入り口部分に青果売場をもつてくのは、野菜や果物は赤・緑・黄色など華やかでパステルカラーに富んでいるので、鮮魚・肉・惣菜ドライグロスサリーの売場に比較してお客様の視線を引き、店内に誘導できる確率が高いからです。また、売場のコーナーに鮮魚と惣菜をもつてくるのは、鮮魚や惣菜は、対面販売をするので、売場から調理場で作業している従業員をリアルタイムでお客様に見せることができ、マグネットの役割をはたし、お客様を店内に誘導・回遊させる役割を担っています。」などと分かり易く説明したつもりでも、完成後、多くのクレームがあり手直し作業をしました。全てではないにしても、極論すれば、建設業界の常識は世間では非常識と考えてコミュニケーションをとりました。また、設計事務所開設後手がけた医療ビルや診療所では、経験が乏しい初期の頃、床材の選定で独善的な考え方で面白いと思いいし張りイメーজで表面に少し凹凸のある床材を使用したところ、訪問するたびに、医師が床材を布で掃除されているので「どうしたのですか?」と尋ねたら「床材に突起があるので、そこに患者の靴の泥がつくので、拭いているのです。特に雨の日は大変です。」と言われ赤面しました。

以上の経験から、発注者とはコミュニケーションを良くとり相互理解に努め、また、あらゆる機会を通じ知識の習得を心がける必要があると思っております。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

国立文楽劇場における、今年度の有料入場者数がおよそ一〇万二〇〇人だったと発表した。このことは、大阪市が設定した文楽協会の補助金満額支給ラインを下回り、補助金が減らされることを示唆する。

そもそも文楽とは、日本を代表する「伝統芸能」の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術と謳われる。古くは江戸時代初期にまでさかのぼり、当初はあやつり人形、後に人形浄瑠璃と呼ばれるようになった。近松門左衛門らの作品により全盛期を迎えるが、その後は盛衰を繰り返した。幕末、淡路の植村文楽軒が大阪ではじめて一座が中心的存在となり、現在劇場は、昭和五九年(一九八四年)に竣工。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造で規模は地下二階・地上五階建て。設計監理は黒川紀章建築都市設計事務所がおこない、施工は竹中工務店・銭高組のJVによる。

他と一線を化す佇まいは、ミナミの繁華街にあって、程よい緊張感と必要な静けさをもたらしている。大阪が育んだ世界無形文化遺産を、私たちはどのように理解しているのか。もっと関心を持ちたい。

建築人 2014

監修 公益社団法人大阪府建築士会

建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

編集人代表 米井 寛

編集人 荒木公樹 飯田英二

筑波幸一郎 中江 哲

橋本頼幸 牧野隆義

事務局 山本茂樹 母倉政美

印刷 中和印刷紙器株式会社



SUTTO

どこまでも無駄なく、シンプルに。

本当に必要とされること以外の一切を削ぎ落とし、洗練に洗練を重ねたミニマリズムがここにある。

SUTTO(スット)、デザイン水栓シリーズ。

SAN-EI 1954 EST.

WEB カタログ・データダウンロードは  SAN-EI で検索
www.san-ei-web.co.jp 株式会社 三栄水栓製作所



関西外国語大学 インターナショナル・コミュニケーション・センター
日建設計 勝山太郎、多喜茂、若江直生、白井尚太郎

「関西外大ルネサンス2009」の第2期整備計画の一環として現中宮キャンパス近接地に開設された本施設は、英語教育をベースに学生、留学生、地域住民、社会人の知的交流を図ることを目的とした、地域、世界に開かれた新しい教育の創造・創発の場としての施設である。

深い庇に守られた透明感あるファサードで内部の活気が表通りや中庭に溢れ出す計画とし、地域住民参加イベントなどの先駆的取り組みや活動を広く街や社会にアピールする、ショーケースとしてのデザインを志向した。

内部は上層階にずれながら広がっていく緑豊かな中庭を中心に、イベントや日常のコミュニケーションを誘発する場、仕掛けを多く盛り込み、国籍や世代を越える知的刺激に満ちた交流空間とすることを目指した。

また、共用部天井は豆砂利を仕込み特殊工法で鏡面仕上げとしたGRCとし、2辺支持ガラスを通して内外連続とすることにより、周囲の緑や通りの賑わい、学生の動きなどが庇を介して柔らかく天井に映し込まれ、緑豊かな中庭・外部空間との一体感を感じる光にあふれた快適な学習空間を実現した。

撮影：古田雅文 第33回大阪都市景観建築賞大阪府知事賞受賞作品

■プロフィール

勝山 太郎 1990年 日建設計入社
現在 設計部 設計部長
多喜 茂 1991年 日建設計入社
現在 設計部 設計主管
若江 直生 2006年 日建設計入社
現在 設計部
白井尚太郎 2009年 日建設計入社
現在 設計部

■建物データ

設 計：株式会社日建設計
施 工：株式会社竹中工務店
所 在 地：大阪府枚方市上野3-600-4
用 途：大学
竣 工：2012年7月
構造規模：S造、一部SRC造
地下1階、地上4階
敷地面積：4,910.77㎡
建築面積：2,925.95㎡
延床面積：9,809.69㎡

